

2023年7月12日

京王電鉄株式会社

「いつも駅からだった 高尾山口編」ご好評につき、10,000部の増刷を決定！

京王電鉄株式会社と株式会社休日ハックは、「小説×街歩き」体験型コンテンツ「いつも駅からだった」の第2話の冊子を高尾山エリアなどで配布していますが、配布開始から大変好評をいただいていることから、10,000部を増刷することとなりました。

「いつも駅からだった」は、京王沿線を舞台にした短編小説シリーズで、小説家の岩井圭也氏が書き下ろした完全オリジナルストーリーの「小説×街歩き」体験型コンテンツです。第1話は下北沢を舞台に、バンドマンの「友情」をテーマとした物語を描きました。今回の第2話では高尾山エリアを舞台に、「親子の絆」にまつわる物語となっています。

お客さまから大変好評をいただいていることから「高尾山口編」を10,000部増刷するとともに、第3話の制作が決定したことをお知らせいたします！第3話の詳細については2023年9月頃に改めてお知らせいたしますので、乞うご期待ください。

増刷決定

高尾山エリアにて
小説配布中!

第2話
高尾山口編

いつも駅からだった

小説 × 街歩き

岩井圭也 (Keiichi Iwai)
小説家

赤羽根 穂積 (Akane Hoshiki)
声優

KEIO × 街ハック!

主催：京王電鉄株式会社 企画製作：株式会社休日ハック ©Keio Co., Ltd. All Rights Reserved. ©Kyoohack Co., Ltd. All Rights Reserved.

「いつも駅からだった」について

(1) 概要

小説家の岩井圭也氏による、京王沿線の駅や街、実在する商店街・店舗などの地域コンテンツが盛り込まれた、オリジナル短編小説を用いた「小説×街歩き」体験型コンテンツです。本短編小説は、冊子だけでなく、専用サイトでも途中まで電子書籍として無料公開しています。

(2) 短編小説テーマ・あらすじ

第2話「高尾山口編」 テーマ：「親子の絆」

～「高尾山口編」のあらすじ～

中学教師・倉田和夫は高尾山を目指し、高校生の息子・龍也と新宿発のMt. TAKAO号に乗っていた。突然不登校になった息子に高尾山に行かないかと提案したところ、了承してくれたためだった。龍也の登校拒否の理由はわからない。ただ、和夫は少し前に日記を覗き見てしまった。そこにはいじめを連想させる文言が連ねられていたのであった。登山中に事実を突き止めようとする和夫。果たしてこの親子は打ち解け、本音で話し合うことができるのか。

(3) 専用サイト

本企画の概要や配布スケジュール、著者・声優紹介などがご覧いただけます。

URL：<https://keionovel.com/>

※第3話の詳細については9月頃にお知らせいたします。

※スケジュールは予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

(4) 冊子情報

判型規格：A6判サイズ、本文36ページ（WEB公開は28ページまで）

配布場所：高尾山口駅・啓文堂書店5店舗・高尾599ミュージアム・タカオネ

追加配布部数：10,000部

※なくなり次第、配布を終了させていただきます。

※5月16日（火）から、10,000部を配布しております。